

食と農の市民談話会 (2021年6~11月) ふり返り



開催のねらい

ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰 中田哲也(5さい)

○日本の食や農が抱える**多くの問題**

(栄養バランスの崩れ、食品ロスの増加、食料自給率の低下、担い手の減少等)

○共通する背景

： **食と農の間の距離の拡大**

- 産地や生産者の姿が見えにくく
- 食べものは単なる「商品」に
- 食べものを大切にし、生産者を敬い、自然や環境を大切にしようという気持ちが希薄化。

○食や農を「**自分ゴト**」として捉えるための一つのきっかけづくり。

食と農の市民談話会

▶2021年

- 第1回 6月 22日 (水) [和歌 毎月第4日(水)]
「健康ライフの一部のわたし達による食の革命」(和歌)
小谷あゆみさん (食ジャーナリスト、コシエタ)
(和歌) <https://www.facebook.com/yayukimura1155/>
- 第2回 7月 13日 (水) [和歌 毎月第4日(水)]
「私が得意な産地をめぐって牛を飼う理由」(和歌)
谷さつきさん (フリーライター、(一社)ふるさとでいきまふの会、和歌) 和歌
(和歌) <https://www.facebook.com/shiwets.fumone>
- 第3回 8月 10日 (水) [和歌 毎月第4日(水)]
「現場から見える日本の食、農の課題」(和歌)
網田みどりさん (食ジャーナリスト)
(和歌) <https://www.ark.or.jp/site/column/article/3033.html>
- 第4回 9月 7日 (水) [和歌 毎月第4日(水)]
「市民協働による関係人口づくりを通じた持続可能な社会づくり」(和歌)
大和田順子さん (和歌山大学ソーシャル・イノベーションコース教授)
(和歌) <https://policy.doshisha.ac.jp/city/tennaka/info.html>
- 第5回 10月 5日 (水) [和歌 毎月第4日(水)]
「私がお寿司に巻き込んでいるもの」(和歌)
八幡名子さん (食ジャーナリスト、東京・ハエビ)
(和歌) <http://www.yokohama-bonmaki.com/>
- 第6回 11月 9日 (水) [和歌 毎月第4日(水)]
「食と資本主義の歴史—人も自然も壊さない経済とは?」(和歌)
千賀 緑さん (京都府立大学准教授)
(和歌) <http://www.shiwets-kyoto.jp/book/3432689.html>

現在、日本の食や農は多くの問題を抱えています。
例えば、栄養バランスの崩れと食習慣の乱れ、食への不安の高まり、食品ロスの増加、食料自給率の低下、担い手の減少と高齢化、産地農地の増加、中山間地域等における集落の消滅等……
これらにはそれぞれ様々な原因がありますが、共通する背景として、食(食卓)と農(生産現場)との間の距離が離れてしまっていることがあります。消費者には産地や生産者の姿が見えにくくなったことから、食べものは単にお金を出せば買える「商品」でしかなくなりました。その結果、食べものを大切にし、生産者を敬い、あるいは食べものをもたらしてくれている自然や環境を大切にしようという気持ちが薄れてきているのではないのでしょうか。
離れてしまった食と農の間を再び縮め、今や圧倒的多数となった都市に住む消費者が、食や農に関わる問題を自分ゴトとして捉えられるようになることが必要です。
本談話会は、そのきっかけ作りの一つの試みです。

- Zoomを使用したオンラインでの開催です
- 毎月1回火曜日(和歌の新月の日)に最も近い火曜日 19:00~21:00 (和歌提供(和歌、和歌の茶、和歌文藝(時間経過))
- 定員は参加30名まで(先着順、和歌の研究会会員の枠は原則15名まで)
- 参加費1回500円(和歌の研究会会費は無料)
- 申し込み: 市民科学研究室ウェブサイトの専用サイトよりお願いします
- お問い合わせ:
主催者であるNPO 法人市民科学研究室へ
電話: 03-5834-8328
メール: renroku@shiminkokuga.org

市民研

第1回 2021年6月8日（火）

小谷あゆみさん（農ジャーナリスト、ベジアナ）

「一億農ライフ 都市の私達による食の革命」

- ・自分で作れば色々な事が変わるよ、都市に住む私たちから食や農を変えていこう。
- ・都市農業は、地方の産地のことを知る**玄関口**。
- ・自分で農を体験し感動すること（**農ライフ**）で、食や農のことを自分ゴトにすることができる。みんなが農に携わる「ニュー農マル」の時代が来た。
- ・世界中の都市でも「**耕す**」動き。私たちの健康は**地球の健康**にもつながる。



（スライドの写真は当日のご本人の資料より。）

第2回 2021年7月13日（火）

谷さつきさん（もーもーガーデン、福島・大熊町）

「牛力草刈りで、あたたかい復興」

- ・ **大震災と原発事故を奇跡的に乗り越えた牛たち**が草を食む力で、農地や環境が再生されている。
- ・ **草などの未利用資源を利用**することで、飼料を自給すると同時に環境を保護することができる。ひいては海外の土地と食料や環境を守ることにもつながる。
- ・ もっとも困難な場所（課題先進地）で実現できている取組みを『**未来のモデル**』として国内外に向けて発信していきたい。

牛力草刈りで、あたたかい復興



大震災と原発事故を奇跡的に乗り越えた牛が青々とした大地で生き生きと草を食む風景は、この地に帰る人、訪問する人々、通過する人々に感動を与えます。安らぎと潤いを与える自然豊かな環境を再生し、チャレンジやイノベーションに溢れた復興に貢献します。



5 未来モデル（災害・感染症にも強い）



（スライドの写真は当日のご本人の資料より。）

もーもーガーデン訪問 (2021. 10/30、福島・大熊町)



牛だけど
ウマイ
(©谷さん)



←10月にオープンした
交流施設 (大川原地区)



第3回 2021年8月10日（火）

榑田みどりさん（農業ジャーナリスト）

「現場から見える日本の食・農の問題」

- ・対立ではなく理解・共生を目指し、都市農家のなかから**農業体験農園**など新しいスタイルが生まれ、全国に拡がりつつある。
- ・**人口減少社会に転換**するなか、都市農地は多様な役割を果たしているものとして都市計画にも積極的に位置づけられるように。
- ・いずれにしても都市は農村からの食料供給があって初めて成り立つ存在であり、都市農業から、**都市と農村の心地よい関係**についてもう一度考えたい。

都市と農村の心地よい関係をもう一度考えたい！

東京の食料自給率（カロリーベース）は1%、神奈川は2%。
都市農業だけでは、とうてい首都圏3000万人の食はまかなえません。

もともと都市の歴史をたどると、
農耕社会（国全体が農村）→農耕技術の発展による余剰食料の誕生
→非農業従事者の増加（第二次・三次産業の誕生）→都市の形成

つまり、**都市は農村から生まれたもので、（国内外問わず）農村からの食料供給があって初めて成り立つ存在**です。

食料問題や都市・農村関係を、都市住民に身近なところから考えてもらう入り口として、都市農業には発信機能を担ってほしいと思っています。

現場から見える日本の食・農の問題

都市農業から考える
農業・農村と都市住民の心地よい関係

2021年8月10日@市民科学講座 食農談話会

報告：榑田みどり（農業ジャーナリスト・明治大学客員教授）

（スライドの写真は当日のご本人の資料より。）

第4回 2021年9月7日（火）

大和田順子さん（同志社大学ソーシャル・イノベーションコース教授） 「農山村に誘われた10年」

- ・ **都市農村交流**に携わって（誘われて）10年ほど。今後、ますます重要に。
- ・ 世界各地、日本各地の**農業遺産地区**には、それぞれ固有の技術や知恵がある。その価値を知ってもらい、保全する活動を応援して頂けると有難い。
- ・ 農村には生きものの賑わいや環境と共生する農があり、人の生活と自然が共鳴している。精神性、生き方も美しく感じられる。
- ・ そのような価値を可視化し伝えていく活動をこれからも続けていきたい。

農業沼と周辺資源を活用した持続可能な地域づくり

食と農の市民懇話会（2021年9月7日、19:00～）

農山村に誘われた10年 ～「世界農業遺産」認定地域の魅力～

大和田 順子

同志社大学 政策学部・総合政策科学研究科
ソーシャル・イノベーションコース 教授
博士（事業構想学）
地域力創造アドバイザー（総務省）



2011年～各地の農山村に通う



（スライドの写真は当日のご本人の資料より。）

第5回 2021年10月5日（火）

八幡名子さん（巻き寿司屋さん、東京・八王子）

「私が巻き寿司に巻き込んでいるもの」

- ・ 食べものの産地や農業にはほとんど関心がなかったが、『東北食べる通信』を読んで、食べものは人（生産者）が作っているという当たり前のことに衝撃を受けた。
- ・ 私たち消費者は生産者さんの思いをもっと知るべき。多くの人に伝えていきたいと思い、本年1月に『巻き寿司屋さん』をオープン。
- ・ 地元の伝統野菜・川口エンドウなど、農家さんからお預かりした大切な食材を美味しい巻き寿司にして、生産者さんの思いを伝えていきたい。

食と農の市民談話会

私が巻き寿司に巻き込んでいるもの

やはためいこ



（スライドの写真は当日のご本人の資料より。）

放談会への八幡名子さんからのメッセージ



巻き寿司やさん
愛情たっぷり巻き込みます。



今回、食と農の市民談話会に参加させて頂きましてありがとうございました。

毎回の講師の方々のお話をお伺いして、食と農の関係は様々な視点から考えられることを改めて気づかされました。

私は巻き寿司を通して、食と農を発信しているつもりではありましたが、このような形できちんと発信する機会はなかったので、今回、自分がやってきたことをまとめる機会を得られたことは、私とっても大変ありがたいことでした。

また、いつか、そして今度はリアルに皆様にお会いできます日を楽しみにしています。巻き寿司パーティーができれば、腕を振るいます！

それまで、日々、巻いて腕を磨いておきます！

この度はありがとうございました。

12月の巻き寿司やさん：12月26日（日）12～15時

「八王子の伝統野菜 **高倉ダイコン**を巻きます！」 <https://www.yahatameikomaki.com/>

第6回 2021年11月9日（火）

平賀 緑さん（京都橘大学准教授）

「食と資本主義の歴史—人も自然も壊さない経済とは？」

- ・ 食べものも農業も、利潤追求をロジックとする資本主義に組み込まれている（**資本主義的食料システム**）。それが歴史的にどのように形成されてきたかを理解する必要。
- ・ 現在の食生活は消費者が自主的に選択したものではない。
- ・ 食料システムを**地域に根差したもの**に変えていくことが必要。
- ・ 「**経世済民**」という言葉が、自然の恵みである農と生命の糧である食と、それを支える**地域社会経済**とを取り戻すきっかけになればと願っている。



食と資本主義の歴史

人も自然も壊さない経済とは？

京都橘大学経済学部 平賀緑



食べものから学ぶ
資本主義経済の歴史

小麦粉、砂糖、油、トウモロコシ、豚肉
食べものから「資本主義」を解き明かす！

なぜ、こんな世界になってしまったのか。
気候変動とパンデミックをかかえて生きる
人たちに、食、農、環境、健康、格差、地
域など、すべての社会問題の根底にある
「資本主義」の成り立ちとカラクリを、産
業革命、世界恐慌、戦争、グローバリゼ
ーションと「金融化」まで紹介。身近な食べ
ものから世界経済の歴史を学べば、人も自
然も壊さない「経世済民」が見えてくるだ
ろうから。



経世済民とは

経済とは、もともとは「経世済民」として、世の中を
治め、人民の苦しみを救うことを目的としていたはずだ。
パンデミックを乗り越えるために「命か経済か」ではなく、
「命のための経済」を取り戻すことが重要だろう。

本来の、自然の恵みである農と生命の糧である食と、そ
れを支える地域経済社会とを取り戻すきっかけになればと
願っている。by 平賀緑 2020年5月



（スライドの写真は当日のご本人の資料より。）

話題提供を頂いた6名の方々、有難うございました。
ご参加下さった皆様にも、感謝申し上げます。
(各会の様子は、市民研HPから動画アーカイブをご覧くださいませ。)

本日の「放談会」の進め方（シナリオなし）

- **小谷あゆみさん**（第1回の話題提供者）、**榊田みどりさん**（第3回）、**大和田順子さん**（第4回）、**平賀緑さん**（第6回）から、語り尽くせなかったこと、その後の新たな展開等についてご発言。
- 話題提供者間、参加者全員で意見交換など（**放談**）。
なるべく多くの方にご発言頂ければ幸いです。
2021年の締めくくりにふさわしい、ざっくばらんで自由闊達な会に。
- **21時終了**（様子を見て、可能な方には残って頂き延長も？）。

食と農の市民談話会 Season2 の開催について (2022年1~3月、全3回)

第7回 2022年1月18日(火)

「有機農業の意義と可能性」(仮題)

話題提供: **浅見 彰宏さん**

(福島・喜多方市山都、福島県有機農業ネットワーク理事長)



第8回 2月15日(火)

「『限界集落』での暮らしとなりわい」(仮題)

話題提供: **赤木(谷内)美名子さん**

(新潟・上越市大賀、農業、もんぺ製作所)



第9回 3月15日(火)

「漁協で働くということ」(仮題)

話題提供: **森 歩(あゆみ)さん**

(兵庫・香美町香住、但馬漁業協同組合(JF但馬)勤務)



Ayumi Mori